

Windows パソコン活用ガイド (3)

-IMAP4 での電子メールの使い方-

赤坂 浩一* 石橋 勇人*

1 はじめに

このシリーズも今回で3回目となりましたが、少しはみなさんの役に立っているのでしょうか？

今年最後の広報となりますので、この記事がクリスマスプレゼントになるか、お年玉になるか、わかりませんがお楽しみ下さい。

前回の解説記事で、京都大学大型計算機センター(以下、本センター)の汎用 UNIX システム(以下、sakura)とパソコン通信システム(以下、クラリネット)で行っている電子メールサービスを PPP(Point to Point Protocol) 接続したパーソナルコンピュータ(以下、PC)から POP3(Post Office Protocol, Version 3) プロトコルに対応したメールクライアントを使って利用する方法について紹介しました。

今回は、前回の予告通りクラリネットでサービスを開始した IMAP4(Internet Message Access Protocol - Version 4rev1.) での電子メールの利用方法について紹介します。

2 IMAP4 とは

IMAP4 は、POP3 と同じように PC でメールを利用するための最新のプロトコルです。

IMAP4 と POP3 は、全く別物で両者には互換性はありません。

単純に比較することはできませんが、POP3 より新しいプロトコルの IMAP4 には、サーバとクライアントの間で使用されるコマンドの数も多く、POP3 がサーバからメールを一括して PC に取り込むことしかできないのに対し、IMAP4 では、特定のメールの取り込みやメールの部分的な取り込みなど、いろいろな操作ができるようにプロトコルで定義されています。

IMAP4 は、次のような特徴を持っています。

- サーバ上にフォルダーを作成
- サーバ上のフォルダーへのメッセージのストア
- メールの部分単位での取り込み
- 共有フォルダーの所有
- サーバ上でのメールの検索

IMAP4 は、基本的にサーバ上にフォルダーを作成してメールを保管しておき、読みたいメールを必要に応じて PC に取り込む形態になります。サーバ上にメールを保管しておくことによって、複数の PC からの利用が容易になります。

例えば、日中は研究室の PC でメールを利用し、夜には自宅の PC でメールを利用するようなケースを考えると、従来の POP3 対応クライアントでは、それぞれの PC にメールを取り込むと、取り込んだメールは、その PC でしか利用できなくなります。

この問題は、POP3 でメールを取り込むときに、サーバからメールを削除しないで残す設定を行うことで、とりあえず防ぐことはできるのですが、両方の PC に同じメールを保存し続けることになり、既に読んだメールを再び処理することになるので、届くメールの数の増加に伴って、メールの整理に膨大な時間を費やすことになります。

IMAP4 では、メールは基本的にサーバ上のフォルダーに保管しておくので、同じメールを何度も処理する必要がなくなります。

PPP 接続した PC でメールを利用する場合、メールを取り込むための時間が長くなると電話料金が気になってしまいます。IMAP4 は、まずはじめにメールのヘッダー情報だけを PC に取り込みますので、メールの数が多い場合や大きな容量のメールがあっても通信時間は短時間で済むようになります。取り込んだヘッダー情報の一覧から必要なメールの本文

* あかさか ひろかず , いしばし はやと (京都大学大型計算機センター)

だけを PC に取り込めば良いので、必要のないメールを取り込むための通信時間が削減できます。

メールの取り込みでは、MIME(Multipurpose Internet Mail Extensions)形式の部分的(パート単位)な取り込みが可能なので、例えば、画像データのように大きなデータの添付ファイルは取り込まないようにすることもできます。

また、サーバ上に共有フォルダーを持つことができるので、同じメールシステム¹を利用している人に対してメールを見せるには、メールを共有フォルダーに保管しておけば、転送のためのネットワークのトラフィックやディスク資源が節約できます。

IMAP4の特徴を挙げると、どうしても従来のPOP3との比較的な内容になってしまいますが、POP3とは基本的に別物であることを覚えておきましょう。

3 クラリネットの利用登録

IMAP4を利用するためには、クラリネットに利用登録しておく必要があります。

クラリネットの利用登録の方法は、いくつかありますがここでは、PPP接続したPCからの利用登録の方法を簡単に紹介します。

既に、PPP接続が完了していることを前提としています。PPP接続については前々回²の解説記事を参照してください。

3.1 telnet の起動

Windows95 に標準でインストールされているtelnetを使用します。タスクバーの「スタート」をクリックしてメニューから、「ファイル名を指定して実行」をクリックします。



図 1. 「ファイル名を指定して実行」

¹ここでは、クラリネットでのIMAP4

²京都大学大型計算機センター広報 Vol.30 No.4



図 2. TELNET

図 1のように「ファイル名を指定して実行」のウィンドウが開きますので、「名前」の欄に、telnet mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jpと入力して、「OK」をクリックすると、図 2のような「TELNET」のウィンドウが開きます。

クラリネットへ接続が完了すると、「User ID:」のプロンプトが表示されます。

3.2 利用の登録

利用の登録は、「クラリネット ユーザー登録システム」で行います。この「クラリネット ユーザー登録システム」では、登録の他に、利用の中止と再開ができ、「User ID:」のプロンプトに対して、applyを入力し[Enter]キーを押すと「クラリネット ユーザー登録システム」が開始します。

はじめに、漢字コードの選択を行います。そのまま[Enter]キーを押すか、1を入力して[Enter]キーを押します。

「クラリネット ユーザー登録システム」のメニューでは、これから利用登録を行うので、1を入力して[Enter]キーを押します。

ここまでの流れを以下に示します。

```
UserID: apply
ただいまの時刻は、 97/11/19 18:50 です。

----- Select Kanji Code
[1.Shift-JIS] 2.New-JIS 3.Old-JIS 4.EUC No.>1

=== クラリネット ユーザー登録システム
1. 登録・利用再開
2. 利用中止
9. 終了

番号を打ち、改行をどうぞ > 1
```

利用登録には、本センターのアカウントが必要となります。お持ちでない方は、先に本センターの利用申請を行ってください。

「利用者番号」には、利用承認書に記載されている利用番号を入力します。

この例では、w55037となっています。なお、利用者番号の先頭の英文字は必ず小文字で入力してください。

「sakuraでのパスワード」には、sakuraでお使いになっているパスワードを入力します。なお、入力したパスワードは画面には表示されません。

まだ、sakuraを一度もお使いになっておられない方は、初期パスワードとなりますが、セキュリティの問題を考えると好ましくありませんので、先にsakuraにログインして、passwdコマンドでパスワードを変更しておきましょう。

利用者番号とパスワードが正しく認証されると、システムからのメッセージが表示され、新規ユーザー登録を開始します。

ここまでの流れを以下に示します。

```
==== 登録・利用再開処理を開始します。
あなたの利用者番号とsakuraでのパスワードを入力して...
利用者番号      : w55037
sakuraでのパスワード: _____
新規IDです。

新規ユーザー登録を開始します。
```

登録を開始しますので、「*** 確認」には、1を入力し、Enterキーを押します。

次の「ユーザーID」には、クラリネット用のユーザーIDを入力します。

クラリネットでは利用者が自由にユーザーIDを選ぶことができますので、4文字以上12文字以内で適当なユーザーIDを入力します。このユーザーIDは、一度登録すると変更できませんので、良く考えて入力してください。

この例では、h-akasakaとなっています。

本センターで推奨しているユーザーIDの命名は、この例のように、姓と名の頭文字を-で連結するようなものです。これは、できるだけ多くの方がユーザーIDに姓や名を使えるようにするためです。

ユーザーIDを入力しEnterキーを押すと、入力したユーザーIDの確認を促されますので、1を入力しEnterキーを押すと、ユーザーIDが既に存在するかをシステムが調べます。存在する場合は別のユーザーIDを再び入力しなければなりません。

「パスワード」は、クラリネット用のパスワードを設定します。パスワードとしては6文字以上の英数字で1文字以上の数字が含まれている必要があります。

この例では、passwd97となっていますが、このような文字列は、簡単に破られる可能性があります。パスワードとしては相応しくありませんので、設定してはいけません。

入力したパスワードは画面に表示されませんので、他の人に覗き見されないように注意しましょう。

パスワードを入力しEnterキーを押すと、入力したパスワードの確認を促しますので、1を入力しEnterキーを押します。

同じ要領で「氏名(英語表示)」、「氏名(漢字表示)」、「氏名(カタカナ表示)」を入力しEnterキーを押し、入力を確認し、1を入力しEnterキーを押します。

この例では、氏名(英語表示)にHirokazu, Akasaka、氏名(漢字表示)に赤坂 浩一、氏名(カタカナ表示)にアカサカ ヒロカズを入力しています。

ここまでの流れを以下に示します。

```
*** 確認(1. 開始する 2. 説明を読む 3. 登録中止): 1
=== ユーザーIDを入力してください
ユーザーID: h-akasaka
*** 「h-akasaka」でよろしいですか。
*** 確認(1. はい 2. いいえ 3. 中止): 1
=== パスワードを入力してください。
パスワード: passwd97
*** 「passwd97」でよろしいですか。
*** 確認(1. はい 2. いいえ 3. 中止): 1
=== ユーザーの氏名を「英語」で入力してください。
(入力例 氏名(英語表示): Kouichi, Imanishi)
氏名(英語表示): Hirokazu, Akasaka
*** 「Hirokazu, Akasaka」でよろしいですか。
*** 確認(1. はい 2. いいえ 3. 中止): 1
=== ユーザーの氏名を「漢字」で入力してください。
(入力例 氏名(英語表示): 今西 幸一)
氏名(漢字表示): 赤坂 浩一
*** 「赤坂 浩一」でよろしいですか。
*** 確認(1. はい 2. いいえ 3. 中止): 1
=== ユーザーの氏名を「カタカナ」で入力してください。
(入力例 氏名(カタカナ表示): イマニシ コウイチ)
氏名(カタカナ表示): アカサカ ヒロカズ
*** 「アカサカ ヒロカズ」でよろしいですか。
*** 確認(1. はい 2. いいえ 3. 中止): 1
```

入力したユーザー登録の情報が表示されますので、ユーザーID、パスワード、氏名(英語表示)、氏名(漢字表示)、氏名(カタカナ表示)に間違いがないことを確認して、1を入力しEnterキーを押すと登録を実行します。

システムからのメッセージがいくつか表示され、ユーザー登録が完了すると「クラリネットユーザー登録システム」のメニューに戻ります。

9を入力しEnterキーを押すと、利用登録を終了し、クラリネットへのtelnet接続も終了します。

ここまでの流れを以下に示します。

*** 入力していただいたユーザー登録は、以下の通りです。

```
---
      ユーザーID : h-akasaka
      パスワード : passwd97
ホームディレクトリ : /usr/mbox/usr/h-akasaka
      スクリプト : default
      使用言語   : jp
      セキュリティID : general
      氏名(英語表示) : Hirokazu, Akasaka
      氏名(母国語表示) : 赤坂 浩一
      氏名(カナ表示) : アカサカ ヒロカズ
---
```

```
この内容で登録します。よろしいですか。
*** 確認(1. 登録する 2. 修正する 3. 中止) : 1
*** ディレクトリを作成しました。
*** 新規ユーザー登録が完了しました。
*** ユーザー名簿に登録しています。
*** ユーザー名簿を並び替えています。
*** ユーザー名簿への登録を完了しました。
```

=== クラリネット ユーザー登録システム

1. 登録・利用再開
2. 利用中止
9. 終了

番号を打ち、改行をどうぞ > 9

クラリネット ユーザー登録システムを終了します。

ご利用開始時刻: 97/11/19 18:50
ただいまの時刻: 97/11/19 18:55

「TELNET」のウィンドを閉じるには、メニューバーの「接続」をクリックしてメニューを開き、メニューから「TELNETの終了」を選択しますが、引き続き、クラリネットでIMAP4を利用するための設定を行いますので、メニューバーの「接続」をクリックしてメニューを開き、メニューから「1 mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp」をクリックして再び、クラリネットに接続します。

3.3 IMAP4の設定

接続が完了すると、「UserID:」のプロンプトが表示されますので、今回は先ほど登録したユーザーIDである `h-akasaka` を入力し `Enter` キーを押します。

次に、「Password:」が表示されますので、先ほど登録したパスワードである `passwd97` を入力し `Enter` キーを押します。なお、入力したパスワードは画面に表示されませんので、間違わないように入力しましょう。

ユーザー認証が完了すると、システムからのお知らせのメッセージが表示されますので、簡単に目を通しておきましょう。お知らせメッセージが長い場合は `Enter` キーを押すと続きが表示されます。もう一度、`Enter` キーを押すと、「くらりねっと・トップメニュー」が表示されます。

IMAP4の設定は、「6. 各種設定」「12. メール転送設定」「1. IMAP/POPの設定」

「1. IMAP/POPを有効にする」の手順で行いますので、`6` を入力し `Enter` キーを押し、`12` を入力し `Enter` キーを押し、`1` を入力し `Enter` キーを押し、`1` を入力し `Enter` キーを押します。

ここまでの流れを以下に示します。

```
UserID: h-akasaka
Password:
くらりねっとへようこそ！
ただいまの時刻は、97/11/19 19:12 です。

***クラリネットは、12月2日から正式運用を開始しました..
    利用負担金は月額300円の定額になっています。

クラリネットに関する技術情報については、

:
:
省略
:
:

*****1997/02/06*****
- 【お知らせ終了。改行キーを押してください】 -

=== くらりねっと・トップメニュー
1. 電子メール                2. サービス案内
3. 会議室                    4. ネットニュース
5. チャット                  6. 各種設定
7. 外部ネット接続          9. 終了
番号を打ち、改行をどうぞ > 6

=== 各種設定
1. パスワード変更
:
省略
:
12. メール転送設定
0. トップメニュー
番号 > 12

=== メール転送の管理
1. IMAP/POPの設定 2. フォワードの設定 0. トップメ...
番号 > 1

=== IMAP/POP 転送の管理
1. IMAP/POPを有効にする 0. トップメニュー
番号 > 1

*** IMAP/POPが有効になりました。
```

これで、IMAP4を利用できるようになりました。なお、「IMAP/POPを有効にする」と、これまでクラリネットでメールを読んでいた方や、届いたメールを `sakura` や他のメールサーバにフォワードしていた方は、クラリネットでのIMAP/POPでしか利用できなくなるので注意が必要です。

もし、「クラリネットでもメールを読みたい!」、「他のメールサーバにもフォワードしたい!」と言う方は、特別な設定を行う必要があるため個別に対応しますのでプログラム相談室までお問い合わせ下さい。

再び、「各種設定」のメニューが表示されますので、「0. トップメニュー」を選択して、「くらりねっと・トップメニュー」から「9. 終了」を選択して終了しますので、`0` を入力し `Enter` キーを押

し、9を入力し[Enter]キーを押します。

ここまでの流れを以下に示します。

```
=== 各種設定
1. パスワード変更
   :
   省略
   :
12. メール転送設定
0. トップメニュー
番号 > 0

=== くらりねっと・トップメニュー
1. 電子メール          2. サービス案内
3. 会議室              4. ネットニュース
5. チャット            6. 各種設定
7. 外部ネット接続     9. 終了
番号を打ち、改行をどうぞ > 9

くらりねっとを終了します。

ご利用開始時刻: 97/11/19 19:12
ただいまの時刻: 97/11/19 19:18
```

これで、クラリネットで行う設定はすべて完了しました。

「TELNET」のウィンドウも必要ありませんので、メニューバーの「接続」をクリックしてメニューを開き、メニューから「TELNETの終了」を選択します。

3.4 クラリネットのIMAP/POPの注意点

クラリネットは自由なユーザーIDを取得できるため、メールアドレスとして分かり易く間違えにくいメールアドレスを持つことができます。

例えば、ユーザーIDがh-akasakaならば、メールアドレスは、

h-akasaka@mbx.kudpc.kyoto-u.ac.jp
のようになります。

通常、PCのメールクライアントの設定で指定するユーザーID(ログイン名)とパスワードは、そのメールサーバのユーザーIDとパスワードになりますが、クラリネットでは、クラリネット用のユーザーIDとパスワードではなく、sakuraのユーザーID(利用番号)とパスワードを指定しなければなりません。

この点に注意してください。

メールアドレスは、あくまで上記のものです。

4 IMAP4対応のメールクライアント

IMAP4は、最新のプロトコルと言うこともあって、IMAP4対応のメールサーバがまだあまり多く使われていないために、メールクライアントの種類も

多くなく、現在、Windows95で動作するIMAP4対応のメールクライアントとしては、次の3つがあります。

- Netscape Communicator
- Microsoft Outlook Express
- (株)オレンジソフト Winbiff 2.0X

4.1 Netscape Communicator

Netscape社のNetscape Communicatorは、現在、バージョン4.04がリリースされています。日本語版のバージョンはまだ4.03が最新の様です。

入手方法は、Netscape社のWWWサーバ

<http://home.netscape.com/ja/>

からダウンロードすることができます。

4.2 Microsoft Outlook Express

Microsoft社のMicrosoft Outlook Expressは、Microsoft Internet Explorer 4.0(以下、IE4.0)をインストールするときにオプションで選択することで使用できるようになります。

入手方法は、Microsoft社のWWWサーバ

<http://www.microsoft.com/japan/ie/>

からダウンロードすることができます。

また、PC雑誌の付録のCD-ROMから入手することも可能です。

4.3 (株)オレンジソフト Winbiff 2.0X

(株)オレンジソフト Winbiff 2.0Xは、シェアウェアのメールクライアントソフトです。

シェアウェアとは、「気に入って、引き続き利用するならお代を払ってください」というもので、けっして、タダではありませんので、利用される場合は、その点に十分注意してください。

入手方法は、オレンジソフトのWWWサーバ

<http://www.orangesoft.co.jp/>

からダウンロードすることができます。

最新バージョンは、Winbiff 2.04bです。

4.4 メールクライアントの現状

先にIMAP4の特徴をいくつか紹介しましたが、どのメールクライアントもIMAP4のプロトコルで定義されている機能を完全に実装しておらず、現在のバージョンでは機能的に十分ではありません。

しかし、魅力的な機能がプロトコルで定義されている IMAP4 は、これからのメールサーバの主流になると考えられますので、今後、IMAP4 対応のメールサーバの普及とともに、クライアントの機能も充実するものと思います。

5 IE4.0 と Outlook Express

Outlook Express は、IE4.0 をインストールすると自動的にインストールされます。

今回は、3つのメールクライアントの中から、Microsoft Outlook Express を例にして、IMAP4 の利用方法を紹介します。

Outlook Express を例にした理由は、IE4.0 は実質的にフリーソフトのようなものなので、入手が比較的容易であり、手元にあった PC 雑誌³の付録の CD-ROM があったからです。

5.1 IE4.0 のインストール

IE4.0 は、ブラウジング機能の充実はもとより、デスクトップ機能も新しくなり、これまでのインターネットエクスプローラ 3.02 と比べて見た目にも違うものとなりました。

個人的には、ブラウザとしては特に気になる点はありませんが、アクティブデスクトップは、まだ十分に使いこなせないからかも知れませんが、あまり使う気になりません。あくまで、個人的な感想ですので、各自で判断してください。

それでは、IE4.0 のインストールを行いましょ。セットアッププログラム (setup.exe) を実行するとウィンドウが開きますので、その中から「IE4.0 のインストール」をマウスでクリックすると、図 3 のように「セットアップの開始」のウィンドウが開きます。

IE4.0 をインストールすると以前のバージョンのインターネットエクスプローラは、IE4.0 に置き換わりますが構わないので、このまま「次へ」をクリックします。

次の「使用許諾契約」のウィンドウでは、使用許諾契約書に目を通し、「同意する」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックすると、図 4 のように「インストール オプション」のウィンドウに切り替わります。



図 3. 「セットアップの開始」



図 4. 「インストール オプション」

インストールオプションには、ドロップダウンリストから「標準インストール」と「完全インストール」の 2種類から選択することができます。

どちらを選択しても Outlook Express をインストールすることができます。「標準インストール」では、Outlook Express の他に、Web ブラウザとマルチメディア拡張機能がインストールされます。

ここでは、「標準インストール」を選択していますが、もし、「完全インストール」を選択される場合は、「説明」の枠内にどのようなものがインストールされるかが表示されていますので、内容を十分確認してインストールを行ってください。

「次へ」をクリックすると、図 5 のように「デスクトップのアップデート」



図 5. 「デスクトップのアップデート」

³ ASCII DOS/V ISSUE 1997年12月号



図 6. 「Active Channel の選択」

クトップのアップデート」のウィンドウに切り替わります。

アクティブデスクトップを使用する場合は「はい」を、使用しない場合は「いいえ」のチェックボックスをマークします。ここでは、「いいえ」を選択して、使用しない設定としました。

「次へ」をクリックすると、図 6のように「Active Channel の選択」のウィンドウに切り替わります。

Active Channel を利用する場合は、一覧リストから地域を選択します。また、一覧リストの先頭の「なし」を選択すると、Active Channel を利用しません。ここでは、一覧リストから「日本」を選択して、Active Channel を利用するように設定しています。

「次へ」をクリックすると、「インストール先フォルダ」のウィンドウに切り替わります。

IE4.0 は、以前のバージョンのインターネットエクスプローラに置き換わるので、既にインターネットエクスプローラがインストールされている場合、同じフォルダが表示されていますので、このまま、「次へ」をクリックするとインストールを開始します。インストールが完了すると、図 7のようなウィンドウが開きますので、「OK」をクリックすると自動的にシステムの再起動が行われます。



図 7. 「インストールの完了」



図 8. 「インストール後のデスクトップ」

PC の再起動が完了し、これまで同じように Windows95 にログインするとシステムが自動的に環境設定を行い、立ち上がると図 8のようになります。

5.2 IE4.0 の環境設定

つづいて、IE4.0 の環境設定を行い、同時に Outlook Express の設定も行います。

「ようこそ Microsoft Internet Explorer」のウィンドウの「クイック入門」をクリックすると、インターネット接続ウィザードを起動する旨のウィンドウが表示されますので、「OK」をクリックすると、「インターネット接続ウィザード」のウィンドウが開きますので、「次へ」をクリックすると、図 9のように「セットアップ オプション」のウィンドウに切り替わります。



図 9. 「セットアップ オプション」

既に、以前のバージョンのインターネットエクスプローラ 3.02 で環境設定を行ってしますので、「既にインターネット接続の設定がこのコンピュータにあり、設定を変更しない」としても良いのですが、念のためここでは、「電話回線または LAN を使って、既存のインターネット アカウントに新しい接続を設定する」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックすると、「インターネット

接続の設定」のウィンドウに切り替わりますので、「電話回線を使って接続する」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックします。

「モデムの選択」のウィンドウでは、使用するモデムをドロップダウンリストから選択して、「次へ」をクリックすると、図 10のように「ダイヤルアップ接続」のウィンドウに切り替わります。



図 10. 「ダイヤルアップ接続」

「既存のダイヤルアップ接続を使う」のチェックボックスをマークして、一覧リストから sakura の PPP 接続用の名前を選択して、「次へ」をクリックすると、「ダイヤルアップ接続の設定」のウィンドウに切り替わります。

ここでも、念のため「はい」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックし、ダイヤルアップ接続の設定を確認しましょう。

「電話番号」のウィンドウの設定情報を確認して、「次へ」をクリックします。同じように「ユーザー名とパスワード」のウィンドウでも設定情報を確認して、「次へ」をクリックすると、図 11のように「詳細設定」のウィンドウに切り替わります。



図 11. 「詳細設定」

「はい」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックすると、「接続の種類」のウィンドウに切り替わりますので、「PPP」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックします。

「ログオンの手続き」のウィンドウでは、「ログオン時に何も入力しなくて良い」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックすると、「IP アドレス」のウィンドウに切り替わり、「インターネットサービスプロバイダが自動的に割り当てる」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックすると、図 12のように「DNS サーバーアドレス」のウィンドウに切り替わります。



図 12. 「DNS サーバーアドレス」

「DNS サーバーアドレス」のウィンドウでは、「常に使用する設定」のチェックボックスをマークして、DNS サーバーの欄に、130.54.9.11 を記入して、「次へ」をクリックします。

sakura の PPP 接続では、DNS サーバーアドレスは 自動的に設定されません ので、必ず、ここで DNS サーバーの IP アドレスを設定してください。

次に、電子メールの設定を行います。

「インターネット メール アカウントの設定」のウィンドウで、「はい」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックすると、図 13のように「インターネットメールアカウント」のウィンドウに切り替わります。

「新規のインターネットメールアカウントを作成する」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックします。

「名前」のウィンドウでは、メールの差出人の



図 13. 「インターネットメールアカウント」



図 14. 「電子メールアドレス」

フィールドに表示したい名前を入力します。この例では、表示名の欄に 赤坂浩一 と記入しています。「次へ」をクリックすると、図 14 のように「電子メールアドレス」のウィンドウに切り替わります。

電子メールアドレスの欄に、クラリネット で取得したメールアドレスを記入します。この例では、h-akasaka@mbx.kudpc.kyoto-u.ac.jp と記入しています。「次へ」をクリックすると、図 15 のように「電子メールサーバー名」のウィンドウに切り替わります。



図 15. 「電子メールサーバー名」

受信メールサーバーの種類には、ドロップダウンリストから IMAP を選択し、受信メールサーバーの欄には、mbx.kudpc.kyoto-u.ac.jp を記入し、送信メールサーバーの欄にも、mbx.kudpc.kyoto-u.ac.jp を記入して、「次へ」をクリックすると、図 16 のように「インターネットメールログオン」のウィンドウに切り替わります。

「次のアカウントとパスワードでログオンする」のチェックボックスをマークして、IMAP アカウント名の欄に sakura の利用番号を記入します。この例では、w55037 と記入しています。パスワードの欄には、sakura のパスワードを記入します。記入したパスワードは表示されません。

クラリネットの IMAP4(または、POP3) を利用



図 16. 「インターネットメールログオン」

する場合、アカウント名とパスワードには、sakura の利用番号とパスワードを記入してください。クラリネットの UserID とパスワードではありません。

「次へ」をクリックすると、「メールアカウント名」のウィンドウに切り替わります。インターネットメールアカウント名の欄には、自由な名前を付けることができますが、特に変更する必要はないので、そのまま「次へ」をクリックします。

今度は、ネットニュースの設定を行います。

「インターネットニュースアカウントの設定」のウィンドウで、「はい」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックすると、図 17 のように「インターネットニュースアカウント」のウィンドウに切り替わります。



図 17. 「インターネットニュースアカウント」

「新規のインターネットニュースアカウントを作成する」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックします。

「名前」のウィンドウでは、ニュースの差出人のフィールドに表示したい名前を記入しますが、先程のメールでの設定した名前が既に設定されているので、そのまま「次へ」をクリックします。

「電子メールアドレス」のウィンドウも設定されているので、そのまま「次へ」をクリックすると、図 18 のように「インターネットニュースサーバー名」のウィンドウに切り替わります。



図 18. 「インターネットニュースサーバー名」

ニュースサーバー名の欄に、news.kudpc.kyoto-u.ac.jpを記入して、「次へ」をクリックすると、「メールアドレス名」のウィンドウに切り替わります。インターネットニュースアカウント名の欄には、自由な名前を付けることができますが、特に変更する必要はないので、そのまま「次へ」をクリックします。

「インターネットディレクトリサービスの設定」のウィンドウでは、「いいえ」のチェックボックスをマークして、「次へ」をクリックします。

以上で、環境設定は完了しました。

「完了」をクリックすると、図 19のように「ダイヤルアップ接続」のウィンドウが開きます。



図 19. 「ダイヤルアップ接続」

「接続」をクリックして PPP 接続が完了すると、図 20のような「クイック入門」のページが表示されますが、先に最終的な設定を確認するために、ここで IE4.0 を終了します。

IE4.0 のウィンドウでツールバー「中止」のアイコンをクリックして、アクセスを中止し、メニューバーの「ファイル」をクリックして、メニューから「閉じる」を選んで終了します。



図 20. 「IE4.0」

5.3 環境設定の再確認

デスクトップの Internet Explorer のアイコンをマウスの右ボタンでクリックするとメニューが開きますので、その中から、「プロパティ」をクリックすると、図 21のように「Internet Explorer のプロパティ」のウィンドウが開きます。



図 21. 「IE のプロパティ (全般)」

「Internet Explorer のプロパティ」のウィンドウには、左から「全般」、「セキュリティ」、「コンテンツ」、「接続」、「プログラム」、「詳細設定」のパネルがあります。

「全般」のパネルでは、ホームページに使用するページを本センターのホームページのアドレスに変更します。「ホームページ」の枠内のアドレスの欄に、<http://www.kudpc.kyoto-u.ac.jp/>を記入します。

次に、「接続」をクリックして、図 22のようにパネルを切り替えます。「接続」のパネルでは、プロキシサーバーの設定を行います。

PPP 接続して利用する場合は、必ず、プロキシサーバーを設定しなくてはなりません。



図 22. 「IE のプロパティ (接続)」

IE4.0 もインターネットエクスプローラ 3.02 と同じように、自動設定により特定のサーバーから情報を入手して、プロキシサーバーの設定を行うことができます。

「自動設定」の枠内の「設定」をクリックすると、図 23 のように「自動設定」のウィンドウが開きます。



図 23. 「自動設定」

URL: の欄に、<http://www.users.kudpc.kyoto-u.ac.jp/proxy.pac> を記入し、「OK」をクリックして、ウィンドウを閉じます。

最後に、「プログラム」をクリックして、図 24 のようにパネルを切り替えます。

「プログラム」のパネルでは、メールやニュースに使用するプログラムを選択します。

メールの欄、ニュースの欄とも、Outlook Express を選択します。

以上で、環境設定はすべて整いました。「OK」をクリックして、「Internet Explorer のプロパティ」のウィンドウを閉じます。

5.4 IE4.0 のセキュリティバグの修正

IE4.0 は、平成 9 年 10 月 1 日にリリースされたばかりですが、既に 2 件ほどセキュリティバグが発



図 24. 「IE のプロパティ (プログラム)」

見されています。修正プログラムが用意されていますので、忘れないうちに修正しておきましょう。

修正プログラムの入手方法は、Microsoft 社の WWW サーバ (http://www.microsoft.com/ie_intl/ja/security/) からダウンロードすることができます。

この解説記事を執筆している時点⁴での最新の修正プログラムは、「Buffer Overrun 問題を解決するための修正プログラム」です。

この修正プログラムをインストールすれば、先の「"Freiburg" テキスト表示問題」も同時に解決することができますので、必ず、ダウンロードして各自の PC にインストールしてください。

6 Microsoft Outlook Express

IE4.0 のインストールと環境設定が完了すると、Outlook Express が利用できるようになります。

クラリネットで IMAP4 を利用するためのメールクライアントとして、Outlook Express の使い方を簡単に紹介します。

6.1 Outlook Express の起動と環境設定

Outlook Express は、デスクトップの Outlook Express のアイコンをダブルクリックするか、タスクバーの「スタート」をクリックしてメニューから、「プログラム」「Internet Explorer」「Outlook Express」をクリックして起動します。

また、IE4.0 の設定でメールやネットニュースを

⁴平成 9 年 11 月 21 日 (金) です

Outlook Express で利用するように設定していますので、IE4.0 のメニューバーの「移動」をクリックし、メニューから「メール」を選択するか、ツールバーの「メール」アイコンをクリックすることでも起動することができます。

起動すると、図 25 のように「OutlookExpress」のウィンドウが開き、PPP 接続を行うかの問い合わせがあります。



図 25. 「接続の問い合わせ」

接続へダイヤルしないを選択し「起動時に使用する標準の接続とする」のチェックボックスをマークして、「OK」をクリックして、このウィンドウを閉じます。

次回から、このウィンドウは開きません。これで通常、Outlook Express の起動時には、PPP 接続しない設定となります。

図 26 は、Outlook Express の起動時のウィンドウです。



図 26. 「Outlook Express」

それでは、Outlook Express の環境設定を行います。メニューバーの「ツール」をクリックしてメニューから「オプション」を選択すると、図 27 のように「オプション」のウィンドウが開きます。

「オプション」のウィンドウには、下段左から「全般」、「送信」、「読み取り」、「スペルチェック」、上段左から「セキュリティ」、「ダイヤルアップ」、「詳細設定」のパネルがあります。



図 27. 「オプション (全般)」

「全般」のパネルでは、特に注意する設定はありませんので、「送信」をクリックして、図 28 のようにパネルを切り替えます。



図 28. 「オプション (送信)」

「送信」のパネルでは、メールやニュースの送信の形式を設定します。

「メール送信の形式」の枠内のテキスト形式のチェックボックスをマークして、右側の「設定」をクリックすると、図 29 のように「テキスト形式の設定」のウィンドウが開きます。



図 29. 「テキスト形式の設定」

「メッセージ形式」の枠内の MIME のチェックボックスをマークし、エンコード方法には、ドロップダウンリストから「なし」を選択し、OK をクリックしてウィンドウを閉じます。

「ニュースの送信形式」についても「メール送信の形式」と同じような設定を行います。

この設定は、メール・ニュースの両方で必ず行ってください。もし、正しく設定しなかった場合は、あなたの送信したメールやニュースを他の人が読めなくなります。

次に、「ダイヤルアップ」をクリックして、図 30 のようにパネルを切り替えます。



図 30. 「オプション (ダイヤルアップ)」

「ダイヤルアップ」のパネルでは、ダイヤルアップの設定を行います。

「Outlook Express の起動時」の枠内のダイヤルしないのチェックボックスをマークされています。これは、図 25 での、設定によるものです。

次に、「接続を切り替える前に警告する」と「送信またはダウンロードが終了したら切断する」のチェックボックスをマークしています。

「オプション」での設定はこれで完了です。

「OK」をクリックしてウィンドウを閉じます。

Outlook Express でメールやニュースを利用するためには、それぞれのアカウントを作成する必要があります。

アカウントの作成は、メニューバーの「ツール」をクリックしてメニューから「アカウント」を選択して行いますが、先の IE4.0 の環境設定で作成してあるので、ここでは作成する必要はありませんが、「アカウント」のプロパティで IMAP4 を利用するための設定を行う必要があります。

メニューバーの「ツール」をクリックしメニューから「アカウント」を選択すると、「インターネットアカウント」のウィンドウが開きます。

左から「すべて」、「ニュース」、「メール」、「ディレクトリサービス」のパネルがあります。

「メール」をクリックしてパネルを切り替え、既に作成したメールアカウントをマウスで選択し、「プロパティ」をクリックすると、図 31 のように「プロパティ」のウィンドウが開きます。



図 31. 「プロパティ (全般)」

「プロパティ」のウィンドウには、左から「全般」、「サーバー」、「接続」、「セキュリティ」、「詳細設定」のパネルがあります。

「全般」のパネルでは、「購読されたフォルダで新着メッセージをチェックする」のチェックボックスをマークします。

次に、「詳細設定」をクリックし、図 32 のようにパネルを切り替えます。



図 32. 「プロパティ (詳細設定)」

「詳細設定」のパネルでは、共有フォルダを購読できるようにするために、「フォルダ」の枠内の

「購読しているフォルダのみ表示する」のチェックボックスのマークをはずします。

「アカウント」のプロパティでの設定は完了です。「OK」をクリックして「プロパティ」のウィンドウを閉じ、「閉じる」をクリックして「インターネットアカウント」のウィンドウを閉じます。

以上で、クラリネットのIMAP4を利用するための環境設定は、すべて完了しました。

6.2 Outlook Express を使い始める前の注意点

Outlook Express は、IMAP4 を完全にサポートしているわけではなく、IMAP4 のメールサーバとお話ができる程度のもので、まだまだ、IMAP4 の便利な機能を使える状況ではありません。

また、サーバのメールを操作する場合、PPP 接続をやり続ける環境ではあまり問題が発生することはありませんが、「送受信」や「すべてをダウンロード」の操作を行うためにのみ PPP 接続を行い、操作完了後に PPP 接続を切断するような使い方をすると正常に動作しないことがあります。

可能な限り接続時間を短く済ませたいのですが、現状では困難のようです。ちなみに、メールの送信は、送信時のみ PPP 接続し、送信完了時に自動的に回線を切断することができます。

現状では、サーバのメールを操作する場合、事前に PPP 接続を完了しておくことが、必要になります。このため、注意して利用しないと PPP 接続の接続時間が長くなる可能性があります。

6.3 IMAP フォルダのダウンロード

まずはじめに IMAP4 を利用するために、IMAP フォルダをサーバからダウンロードします。

Outlook Express のツールバーの「接続」アイコンをクリックして、PPP 接続を開始します。PPP 接続の完了を確認して、フォルダ一覧からメールアカウント「mbox.kudpc.kyoto-u.ac.jp」をクリックすると、図 33 のように確認のウィンドウが開きます。

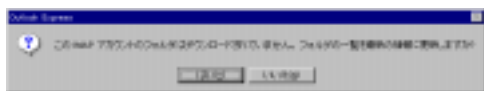


図 33. 「ダウンロードの確認」

「はい」をクリックすると、サーバで利用できるフォルダの一覧のダウンロードを開始します。

ダウンロードが完了すると、図 34 のようにサーバで利用できるフォルダとして、「受信トレイ」と「announce」の 2 つのフォルダが表示されます。



図 34. 「ダウンロード完了後」

ここで、PPP 接続を切断しておきましょう。電話代が気にならない方は、そのまま接続しておいても構いませんが...

切断するには、ツールバーの「切断」アイコンをクリックします。

「announce」は本センターのテスト用の共有フォルダです。利用者の方は、このフォルダを購読することはできませんが、フォルダに対する他の操作はできません。

クラリネットのメールアドレスに送られたメールは、「受信トレイ」のフォルダに保管されます。このフォルダは、利用者が自由に操作することができ、この配下に、新しくフォルダを作成することができます。

6.4 メール送信

ツールバーの「作成」アイコンをクリックすると、「メッセージの作成」のウィンドウが開きます。「宛先」にメールの受取人のアドレスを指定します。この例では、自分自身にメールを送ることにします。「件名」には、メールの内容を本文を読まなくてもわかるように簡潔に書きます。

図 35 のように本文を書き終え、このウィンドウのツールバーの「送信」アイコンをクリックして、「ダイヤルアップ接続」のウィンドウが開く場合は、直ちにメールを送信する場合の除き「オフライン作業」をクリックします。

「メールの送信」のウィンドウが開き、メールを送信トレイに保管する旨のメッセージが表示されるので、「OK」をクリックすると、「メッセージ作



図 35. 「メッセージの作成」



図 37. 「メールの受信」



図 36. 「メールの送信」

成」のウィンドウも閉じます。

メニューバーの「ツール」をクリックし、メニューから「送信」をクリックすると、オンラインに切り替えるかの問合わせがあり「はい」をクリックすると、図 36 のように「送信トレイ」のメールを送信するために、PPP 接続を開始します。

メールの送信が完了すると、自動的に PPP 接続を切断します。

6.5 メールを受信

メールの受信を行う前に、先にツールバーの「接続」アイコンをクリックし、PPP 接続を行います。

PPP 接続の完了を確認して、フォルダ一覧から「受信トレイ」をクリックしすると、図 37 のようにサーバに届いたメールを PC に取り込みます。

IMAP4 を使用する場合、メニューバーの「ツール」をクリックし、メニューから「送受信」を選択したり、ツールバーの「送受信」アイコンをクリックする必要はありません。

必ず、フォルダ一覧の「受信トレイ」や「announce」をクリックするようにしてください。

サーバのメールをすべて PC に取り込んだ後、

ツールバーの「切断」をクリックして、PPP 接続を切断します。

6.6 フォルダの作成

サーバにフォルダの作成する場合は、先にツールバーの「接続」アイコンをクリックし、PPP 接続を行います。

PPP 接続の完了を確認して、メニューバーの「ファイル」をクリックし、メニューから「フォルダ」を選択し、サブメニューから「フォルダの作成」をクリックすると、図 38 のように「フォルダの作成」のウィンドウが開きます。



図 38. 「フォルダの作成」

「フォルダ名」の欄に作成するフォルダの名前を記入し、フォルダを作成する場所をマウスで指定します。「OK」をクリックするとフォルダを作成します。

ここでは、PC から送信したメールを保管しておく、フォルダを作成しました。なるべく、PC 側にデータを残さず、サーバのフォルダを活用するようにしています。

6.7 メールの移動

IMAP4 を利用すると Outlook Express では、受信トレイアシスタントが利用できないため、手動でメールの整理を行う必要があります。

メールを別のフォルダに移動するには、移動するメールをマウスで選択し、メニューバーの「編集」をクリックし、メニューから「フォルダへ移動」をクリックすると、図 39 のように「移動」のウィンドウが開きます。



図 39. 「移動」

移動先のフォルダをマウスでクリックし、「OK」をクリックするとメールを移動します。

サーバのフォルダを移動先とする場合、事前に PPP 接続を完了しておきましょう。

6.8 メールの削除

削除するメールをマウスで選択して、メニューバーの「編集」をクリックし、メニューから「削除」をクリックするか、ツールバーの「削除」アイコンをクリックすると、削除済のメールとして、印がつけられます。

メニューバーの「編集」をクリックして、メニューから「削除済メッセージをクリア」をクリックすると、サーバに保管されていたメールを削除します。この操作を行わない限り、サーバのメールは削除されません。

なお、サーバのメールを削除する場合、事前に PPP 接続を完了していなければなりません。

6.9 オフライン作業

IMAP4 は、サーバのフォルダに保管してあるメールを読むことが特徴ですが、実際には、PC 側に一時的に取り込み、一定の期間保存しているの

で、サーバに接続していない状態でも、「受信トレイ」のメールを読むことができます。

逆に、サーバに接続している状態で、「受信トレイ」のメールを読むと、いちいち、サーバにアクセスしてメールの状態を確認するので、沢山のメールが保管されているようなフォルダをアクセスすると、大変時間がかかってしまうことがあります。

メニューバーの「ファイル」をクリックし、メニューの中の「オフライン作業」をクリックして、チェックを付けてオフライン作業にしておけば、サーバにアクセスせずに、PC 側に保存しているメールを読むことができます。

6.10 その他の操作

アドレス帳や署名の使い方は、基本的に前回紹介したインターネットメールと同じようなものです。

また、Outlook Express のメニューバーの「ヘルプ」をクリックし、メニューから「目次とキーワード」をクリックすると、Outlook Express のヘルプを見ることができますので、こちらも参考にしてください。

7 おわりに

以上、クラリネットで新しくサービスを開始した IMAP4 での電子メールの利用方法について紹介してきましたが、今回、この解説記事を執筆するために実際に使用した感想としては、「まだ、少し早いかな?」「もう少し、クライアントもサーバも揃ってからのほうが良かったかな?」と感じました。

今回はじっくり腰を据えて、IMAP4 を十分に使いこなすことなく、原稿の締め切りに追われながらの執筆となりましたので、是非、この続きを書きたいと思っています。

今後、登場するクライアントやサーバに注目しながら、その機会を待ちたいと思います。

ご意見・ご質問などございましたら、プログラム相談室までご連絡ください。

